

# 奨励賞 受賞

団体名  
財団法人 みやぎ・環境とくらし・  
ネットワーク (MELON)

分類別  
ごみ減量・  
環境パートナーシップ

プロジェクト名

「仙台スタジアムごみ減量大作戦」プロジェクト

## ◆観客、チーム、ボランティアが 一体となってごみ削減

私たちMELONは、多くの人々が集う場所(スタジアム・イベント等)でのごみ減量のシステムづくりを行うため、また、幅広い市民の環境問題への関心を高め、活動参加へのきっかけづくりにもなることを目指し、スタジアムの会場運営などにあたるボランティア組織「ベカルタ仙台・ボランティア・ネットワーク」(略称VVN)と協同でこのプロジェクトを開始しました。

J1リーグチーム「ベカルタ仙台」の仙台スタジアムでの主催試合において、スタジアムから出るごみの内容・量を調査し、分別・回収方法の改善等を通じてごみの容量(かさ)を減らすとともに、売店でのリユースカップの導入など、根本的にごみ減量を図るシステムづくりを行っています。

仙台スタジアムを訪れる観客は、職業・年齢層・環境への意識などが多様な一般市民であり、この活動が定着することにより、継続的に幅広い市民に環境問題をアピールするこ

とが出来ると、私たちは考えました。また、環境NGOとして、地域に密着した活動に取り組むことによって、より具体的に地域と地球環境を大切にしていける教育・文化の普及・啓蒙活動をし、環境活動の新たな担い手を育てていくきっかけづくりとなることを目指しています。

## ◆たくさんの人たちに支えられながら…

### プロジェクト体制

＜企画本部＞

調査班…実態調査の企画および実施、調査データ類の収集・取りまとめを行う。このプロジェクトの一番の要となる調査・分析を担う。

企画班…調査班のとりまとめた内容を元に、独自に集めた情報を精査し、活動の方向性について企画本部会議に提案を行う。このプロジェクトの方向性を決める舵取り役を担う。

広報班…本プロジェクトをより多くの人にわかりやすく伝えるため広報活動を展開する。



オブザーバー・協力団体…本プロジェクトは様々な分野で活動されている方々に助言をいただき行っている。

資源回収業者には毎回調査にご参加いただき、紙コップをリサイクルするシステム作りにご協力いただいています。また環境社会学をなさっている大学教授陣にも様々な助言をいただいたり、他団体環境NPOや大学生・専門学校生、各種協同組合等などの協力・参加もあり、本プロジェクトは展開しています。今年(2003年)6月には仙台市の環境社会実験として採択され、マスコミにも多数取り上げられました。

### ◆ごみ減量大作戦 始動!!

3月15日(2003年、以下日付はすべて2003年)の基礎調査では、ごみ袋のカウント、ごみ袋内容物の組成調査、サポーターのごみの捨て方の観察等を行いました。ごみ袋の総数は約450袋、ごみの中身はコップ類と弁当容器類が全体の6割を占めることが分かりました。



上：分別しやすく並べ替えられたごみ袋  
右：ボランティアの手で重ねられた紙コップとプラスチックコップ

また、ごみ分別表示が不十分であることや、人の流れとごみ袋のミスマッチが判明。これら調査の結果を踏まえて、以下の大作戦を決行しました!

### ＜ごみ袋の貼り方・並べ方徹底大作戦＞

3月23日の予備調査の結果挙がってきた問題点を元に、サポーターが分別しやすく、ボランティアの作業効率が上がるようにごみ袋の貼り方・並べ方を工夫し改善しました。改善後は、すべてのゲートに分別表示を設置したことにより、ペットボトル等の資源回収率が上昇し、燃やしてしまうごみ袋の数は25%削減されました。

### ＜コップ分別回収!大作戦＞

「ごみの中身はコップ類と弁当容器類が全体の6割を占める」との調査の結果から、4月13日から紙コップ、プラスチックコップの分別回収を開始。カウントの結果、1試合約7千個のコップがごみとして捨てられていることが判明。捨てる際に、コップを重ね「かさ」を圧縮することで、ごみ袋を約70袋削減することに成功しました。

この調査結果をもとに、ごみを減らす対策として「MYカップ制」の導入を提案。この提案にチームが応える形で7月2日、ベガルタ特製オリジナルタンブラー(定価500円)が売り出されることとなりました。





売上も好調で初日用意した 3,000 個は試合開始前に完売。次に用意した 4,000 個も 7 月 16・19 日の試合で完売しました。その後も順調に売上を伸ばし、販売個数はついに一万個を突破しました。

チームの積極的な働きかけで各業者の協力を得たこともあり、ベガルタ特製オリジナルタンブラーを仙台スタジアム内で利用するとビールは 100 円引き、その他飲料は 20 円引きになります。この制度はサポーターにも大変好評で、継続してスタジアムにタンブラーを携帯してくる姿が多数見られ、現在使い捨てられるコップごみは約 3 割削減されました。

### <紙コップリサイクル大作戦>

7 千個から 5 千個に減った紙コップ、プラスチックコップをリサイクルするシステムを資源回収業者と模索した結果、紙コップのリサイクルルートを確立しました。いよいよ 9 月 20 日から紙コップのリサイクルが始まります。しかしリサイクルできる紙コップは飲料用に使用されたものに限られているため、今後、油や調味料で汚れたコップをどうしていくか、またすべてのコップを「紙」に統一するようチームと連携をとりながら進めていきます。

### <ボランティア・警備員のお弁当大作戦>

毎試合およそ 2 万人のサポーター誘導のため、動員されるボランティアと警備員は約 400 名。3 月 15 日、試合後の控室をお邪魔するとそこにあったのはたくさんのダンボール箱からあふれている食べ終わったお弁当箱の山でした。仙台スタジアムに関わる全ての人々のごみ意識の向上のため、お弁当分別の徹底を

MELONがサポート。サポーターから出されるお弁当と違い、こちらのお弁当はすべて統一された容器のため重ねて分別することが可能。分別に注意を促すため、分別表示を作成し掲示することになりました。

3 月 23 日には容器等がすっきり重ねられたことにより、3 月 15 日の 5 分の 1 のかさになり、表示のない割り箸やストローまでが自然にボランティアの手により分別されるようになるなど、ごみへの関心が高まりました。

また、ここで分別回収した生ごみは、県内で農業をしている本プロジェクトメンバーが回収して堆肥化しています。この夏の堆肥でゴーヤとペパーミントが収穫されました。

さらに、弁当容器に関しても 8 月より弁当業者の理解と協力により食べ終わった弁当容器の内側のフィルムをはがすことでリサイクルできるものが採用され、ごみ減量がますます加速しています。



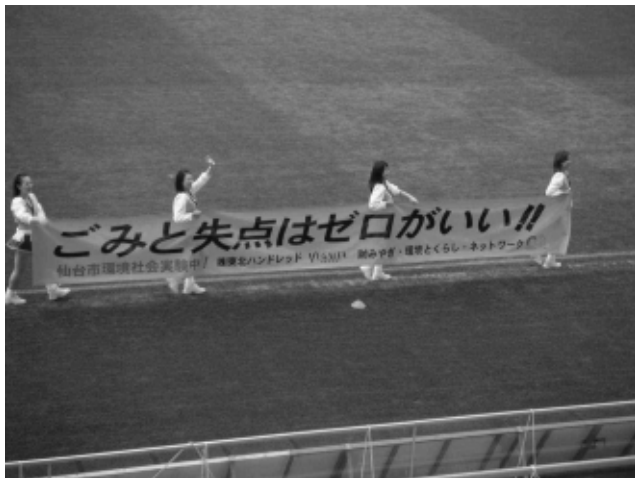
控室のごみ分別のようす ↑



弁当の生ごみで出来た堆肥を使って育てたゴーヤとペパーミント →

### <横断幕大作戦!!>

9月6日から、2万人のサポーターに向けて、横断幕によるごみ減量への協力呼びかけをスタート。チームとともに作成した横断幕は「ごみと失点はゼロがいい!!」「プレイは華麗に!スタジアムは綺麗に!!」「ゴミの分別・持ち帰りにご協力ください!!」「スタジアムの感動と一緒にごみも持ち帰ろう!」の4種。試合前、ハーフタイム、試合終了後の各時間帯に、ベガルタチアリーダーズが横断幕を持って周回するこの企画は、今シーズン終了まで続きます。



緑の地球を子どもたちへ。

### ◆環境問題をより多くの人々と考え共有

これまでに(2003年9月現在)、仙台スタジアムでの調査を14回、企画本部会議を6回、ボランティア、サポーターにごみへの関心を高めってもらうための「仙スタごみ減量NEWS」を号外を含め10回発行しました。また、HPを作成し、環境問題への意識向上のため呼びかけています。

本プロジェクトは、チームや他団体との連携により現状の分析から問題改善へと足元から着実に進んできました。今後も、チームやVVNとの話し合いを重ね、環境問題をより多くの人々と考え、共有し、取り組んでいきたいと考えています。

**参加団体名称**

**財団法人**

**みやぎ・環境と暮らし・ネットワーク  
(MELON)**

**代表者氏名 木村 修一(理事長)**

**担当者氏名 小林 幸司(事務局統括)**

**お問い合わせ先**

**住所 〒981-0933**

**宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45**

**フォレスト仙台5F**

**URL <http://www.melon.or.jp/melon/>**

**TEL 022-276-5118**

**FAX 022-219-5710**

**E-mail [melon@cir.tohoku.ac.jp](mailto:melon@cir.tohoku.ac.jp)**

### **団体紹介**

1992年にブラジル・リオデジャネイロで開催された地球サミットをきっかけに、緑と水と食をとおして環境と暮らしを考え、地球環境保全のために地域から活動をおこそう、と多くの市民、研究者、協同組合、企業、団体が力を合わせて作ったNGOです。地域と地球環境を守るため、一人ひとりの参加と協力をつなぎながら、誰もが気軽に参加でき、さらに学習機会としても不足のない継続的な活動を目指しています。

#### **MELONの目的**

- ① 地域と地球環境、暮らしに関する調査・研究・政策提案を行う。
- ② 地域と地球環境をたいせつにする教育・文化の普及と啓蒙・啓発活動を行う。
- ③ 地域と地球環境を保全していくための活動を企画・実践する。

設立：1995年12月(任意団体としてのスタートは1993年6月) 会員数：1038名(2003年9月現在)